

児童発達支援に係る自己評価結果公表用

公表日：4年 2月 1日

事業所名：通園(デイサービス)事業
おれんじくらぶ

事業所職員及び保護者の方の御意見を踏まえ、自己評価の結果を公表します。
評価を踏まえて、事業所の運営における課題点及び改善すべき点を確認し、今後の運営に活かしていきます。

(配布18 回収14 回収率70%)

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標
		はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	
環境・ 体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	2	2		集団療育時には、道具を片付ける部屋に1室使用の為、相談の出来る場所が確保できず、時間を別に設定することで、可能になるようにしている。	13	1			利用人数と支援の内容とを考慮しながら空間の確保を行って行く様になっている。保護者の相談を受ける場所の確保を考えたい。
	2 職員の適切な配置		4			13			1	男性職員の登用を検討する必要がある。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障がいの特性に応じた設備整備		3	1		13			1	設備上難しい事もあるが、パーテーション等を活用しながら個々の特性に配慮した方法を考えている。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保		3	1		14				
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	4			ミーティングの時間を設定し、職員の意識統一を心がけている。					時間を有効に使いながら、効果的なやり方をしていきたい。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施			4						
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	2	2		感染症が流行してからは、消極的になっている。					しばらくは、感染対策としてオンライン研修が主になると思われるが、積極的に参加できるようにする。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	3	1			14				できるだけ子どものニーズを大切にしている。しっかりと計画を基に保護者と共有したい。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	3	1			13	1			
	3 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	4								他事業との連携のもと、事業所間において個別療育と集団療育を保護者が無理なく利用できる様に努めている。

区分	チェック項目	事業所の現状評価			保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標	
		はい	どちらともいえない	いいえ	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
適切な支援の提供 (続き)	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	2	2		14				
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	2	2	集団療育は、グループリーダーにより立案、打ち合わせ時に役割分担や配慮事項の確認や修正により実施。					できるだけ、相談し合える環境を作るようにしている。
	6	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	4			12	1	1		「たのしい」事は前提にあり、個々に応じた具体的な支援方法を取り入れながら実施できる事を目指している。
	7	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	3	1	就学前児童については、保育所利用の為、平日のみの活動になる。					
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	3	1						集団療育では、打ち合わせは欠かさないようにしている。安全に実施する為にも。
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	3	1						振り返りも欠かさないようにしている。それぞれのスタッフから意見を聞く事で、活動内容や子どもを色々な角度から確認出来る。
	10	日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	4		記録の方法(様式)や量、記録を取る時間を工夫してできるだけ円滑な業務を目指している。保護者にも確認してもらおう。					保護者に確認していただいても支援の方法が伝わりやすい記録を心がけたい。
11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	4								
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	4							
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施								
関係機関との連携 (続き)	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備								
	4	児童発達支援事業所及び放課後等デイサービス事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有		4						保育所との関係が以前よりもスムーズになったと感じている。こちらからの働きかけの方が不足しているとも感じる為、特に就学前の子どもについては関係を取っていききたい。
	5	他の障害福祉サービス事業所等への円滑な移行支援のため、それまでの支援内容等についての十分な情報提供	1	3	町内の事業所間で(放デイ、相談)では、定期的に連絡会を実施している。					互いの状況を知ったうえで、利用者がより効果的に療育を利用できるようにしていきたい。
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進		3	1					
	7	児童発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障がいのない子どもと活動する機会の提供		2	2		9	2	3	多くの利用児は保育所を利用されているため、事業所内での交流の機会はない。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に関わった事業の運営		3	1					保育所は子育て支援センターとして機能しているため、今後連携が取れると良いと思う。
保護者への説明責任・連携支援	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	4			14				
	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	4			14				
	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	4		他事業所との協力により、ペアレント・トレーニングの手法を活用したプログラムにより実施している。これを活かし、集団療育の際、月1回ほっとたいむ(保護者間の交流)を実施。	12	1	1		集団療育後の「ほっとたいむ」(保護者間交流)について保護者からも「おなじ保護者の立場だから言えることもある」という意見があり、期待して参加される方が多い。継続したい。
4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	2	2		13			1	親子での通所であり、一緒に活動に参加していただけるため、場面によっては支援方法を直接伝えたり、一緒にやってみる事もできる。小さなことでも、短い時間で伝え、子どものできたことや、保護者の良かった姿などを伝える事で、共通理解につながる。継続したい。	

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標
		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	
保護者への説明責任・連携支援（続き）	5	2	2			13			1	場面を区切って、話しをすることができる事を保護者に周知し、いつでも気軽に相談できるようにしていく。 "ほっとたいむ"の継続もし保護者同士で相談できる場も大切にしたい。
	6	2	2		保護者の活動は講演会等を含み年間実施されている。	10			3	保護者会活動の在り方については、保護者を中心に再検討する必要があるのではないか。（発足当時の目的の再確認や今後の保護者会の必要性や活動内容について）
	7	3	1		契約時に保護者には説明。法人内で定期的に委員会の実施。	8			4	保護者への説明が不足している。周知の方法を検討する。
	8	4					1			
	9		3	1	ホームページの掲載。年1回文集の制作。事務所内に活動の写真を閲覧できるファイル。	9			4	マチコミ登録を検討している。
	10	4				13				
非常時等の対応	1	3	1		法人保育所との連携により、策定している。	8	2		3	マニュアルとしてはあるものの、いざという時に対応できるかと言う事のやや不安がある。シミュレーションなど市し、緊急時に対応できるようにしたい。また、保護者への周知も徹底する。
	2	3	1		月に1回法人保育所の実施に合わせて実施。	8	2		3	保育所との合同により、避難訓練は実施しているものの、対象児全てにおいてできていない為、保護者全体への周知ができていない。実施をした際の周知の方法も検討していきたい。
非常時等の対応（続き）	3	2	2							外部研修ができない時には、内部で研修の機会を持つようになっている。
	4		4							
	5		4							
	6	4								環境の設定や職員の配置などについて改善点を確認し、同じ失敗のないように心がけている。